

令和6年（2024年）度行政評価シート【個表】

令和 6 年 6 月 21 日

評価対象事業		評価者	選挙管理委員会事務局長 藤田 聡一郎	
選挙-01	選挙啓発事業	☒ 自治事務	主管課	選挙管理委員会事務局
		☐ 法定受託事務	関連課	
総合計画上の位置付け	分野	0-(1) 市民自治	施策の方針	0-(1) 市民自治

1 事業の目的

対象	市民
意図	有権者の政治意識の高揚を図るとともに、棄権防止、選挙違反の根絶を呼びかけるため。
効果	適正に選挙を執行する。

2 令和5年(2023年)度を実施した事業の概要

鎌倉市明るい選挙推進協議会の活動支援を行った。 ・市政を知る会を開催し「鎌倉市のごみ処理の現状と課題」について講演会を実施した。 ・中学校等において「出前選挙・模擬選挙」を実施した。

3 事業を構成する事務事業(最小事業)実績

枝番号	事務事業	実施した主な事業 (主な経費等)	指標(単位)	令和5年度	令和6年度	達成度
				指標(実績値/目標値) 事業費(決算/当初)(千円)	指標(目標値) 予算額(千円)	
01	選挙啓発事務	鎌倉市明るい選挙推進協議会補助金、学習センター使用料		/		
				119 / 157	189	
			国県支出金	/		
			地方債	/		
			その他特定財源	/		
			一般財源	119 / 157	189	
			事業費の合計(千円)	119 / 157	189	
			人件費(千円)		1,519	8,613

4 この事業に関わる職員数(毎年度4月1日時点)

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
正規職員等	0.8	0.1	0.2	0.2	1.0	
会計年度任用職員	0	0	0	0	1	

5 評価結果

(1) 最小事業評価

枝番号	事務事業	指標分析の推移、 目標未達の理由	上位施策にどう寄与したか、 構成する事業としての妥当性	事業実施上の課題、改善点
01	選挙啓発事務	模擬選挙の実施校数を指標としてきたが、学校の都合や選挙の有無が実施校数に大きく影響するため指標になじまない。	選挙は民主主義の根幹であり、市民のより一層の政治参加を図るために必要な事業である。	選挙時や学校の都合で模擬選挙の実施が困難な時の模擬選挙に替わる事業を検討。 コロナ禍で実施できないときに、本市が協力してJICAが作成した「選挙実務映像教材(YouTubeで視聴可)」を模擬選挙に代わる教材として学校に紹介した。

(2) 視点別評価

効率性	事業費の削減余地はないか	1 事業費の削減余地はない	
	事業の外部化(民営化・業務委託等)はできないか	2 外部化に向けて検討できる事業がある	
	関連・類似する事業の統合はできないか	3 統合できる事業はない	
妥当性	各事業の実施に対する市民ニーズはあるか	4 市民ニーズを計ることはなじまない	
	民間によるサービスで代替できる事業はないか	3 民間によるサービスで代替できる事業はない	
有効性	事業の上位施策に向けた貢献度はどうか	1 目的達成のために適切な手段(最小事業)である	
公平性	受益者負担は公正・公平か	△.負担未導入	△-2 受益者はいるが、今後も公費により全額市が負担すべきものである
協働	市民等と協働して事業を展開しているか	○.協働実施済	○-2 市民等と協働して適切に事業を実施している
			協働実施済の場合のパートナー 鎌倉市明るい選挙推進協議会

(3) 総合評価 ※最小事業評価を踏まえて、今年度以降の取組方針等を記載する

【今後の方針】 ☐ 拡充 ☐ 改善・変更 ☒ 現状維持 ☐ 縮小 ☐ 休止・廃止

鎌倉市明るい選挙推進協議会の活動の活性化を図りながら、若年層への啓発活動、一般市民への啓発活動などを推進していく。

【参考】

◎事業実施に係る主な指標

指標(単位)							単位	
指標設定理由	年次	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
	目標値							
	実績値							
	達成率							

指標(単位)							単位	
指標設定理由	年次	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
	目標値							
	実績値							
	達成率							

◎他市比較・ベンチマーク(県内外自治体など他自治体や民間団体との比較値)

比較事項								
団体名	鎌倉市							
他市実績								

当該事業実施に伴う 他市比較に関する考え方	
--------------------------	--